

お台場鳥の島（2 島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（7 月）報告書

2023 年 7 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や、経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 5 年 7 月 14 日（金）	8 : 00～14 : 00	曇り

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に 1 本設定し、観察範囲を片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第 5 回秋季調査（※調査回の定義については後述する）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に 1 台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から 83 日間であった（第 8 回春季調査～第 8 回夏季調査）。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 8 回の夏季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、7 目 17 科 21 種が確認された（表 4）。
- 確認種のうち、水域及びその周辺に生息する種として 9 種（カルガモやアオサギ、ハクセキレイ等）が確認され、確認種全体の約半数を占めた。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 5 種（シジュウカラやヒヨドリ、カワラヒワ等）が確認されたほか、都市部で見られる種として 4 種（ツバメやムクドリ、ドバト等）、様々な環境で見られる種として 3 種（キジバト、トビ及びハシブトガラス）が確認された（表 4）。
- 渡り区分別にみると、留鳥（ある地域で一年中見られる種）の確認種数が最も多く、19 種（キジバトやハシブトガラス、ムクドリ等）が確認された。次いで夏鳥（ある地域で夏に見られる種）が 2 種（コチドリ及びツバメ）確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ、トビ及びオオタカの合計 7 種が確認された（表 4）。島内では、護岸で採餌するイソシギ及びコサギ、広葉樹上空で採餌するトビ、低木にとまるオオタカが確認された。島外では、海域上空を通過するダイサギ、コチドリ及びウミネコが確認された。
- 外来種はドバトが確認された（表 4）。
- 確認個体数の最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 195 個体（表 5）、ラインセンサスでは西島で合計 9 個体が確認され、優占度は 38%を占めた（表 6）。定点観察調査では西島で合計 42 個体（表 7）が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や島内外の上空を通過する個体が確認された。また、東島で 119 箇所、西島で 37 箇所の営巣が確認され（繁殖への影響を考慮し、遠方からの視認のため概算とする）、西島では繁殖活動は終了していたが、東島では 8 個体前後の巣内雛が確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種はアオサギであった。船上センサスでは両島で合計 19 個体（表 5）、ラインセンサスでは西島で合計 1 個体（表 6）、定点観察調査では両島で合計 7 個体（表 7）が確認された。主に落葉広葉樹や護岸にとまる個体や、島内外の上空を通過する個体が確認された。
- 確認個体数が比較的多かった種は、シジュウカラやカルガモであった。シジュウカラは、船上センサスでは両島で合計 5 個体（表 5）、定点観察調査では両島で合計 8 個体（表 7）が確認された。主に常緑・落葉広葉樹で採餌する個体が確認された。カルガモは、船上センサスでは東島で合計 7 個体（表 5）、ラインセンサスでは西島で合計 2 個体（表 6）、定点観察調査では両島で合計 2 個体（表 7）が確認された。主に護岸で休息する個体が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 7 回（前回調査）と第 8 回（今回調査）の確認種数は、第 7 回では東島で 13 種、西島で 17 種、合計 19 種、第 8 回では東島で 16 種、西島で 21 種、合計 21 種であった（表 8）。第 7 回及び第 8 回で確認された共通種は 19 種となり、第 8 回の確認種全体の 9 割程度であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 7 回で確認されず第 8 回で確認された種はオオタカ及びハクセキレイの 2 種であった（表 8）。オオタカは、これまでの調査において不定期に旧防波堤で観察されている種であることから、第 7 回では確認されなかったものと考えられる。なお、第 7 回の自動撮影カメラによる撮影記録がある。ハクセキレイは、これまでの現地調査において定期的に観察されている種であり、第 7 回の夏季以外の季節では記録されている。
- 第 7 回より第 8 回で確認個体数が増加した種はシジュウカラであった（表 9、10、11）。前述した通り、第 8 回では主に常緑・落葉広葉樹で採餌する個体を確認された。家族群が飛来し、個体が多く確認されたものと考えられる。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類 5 目 6 科 6 種、哺乳類 2 目 2 科 2 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ハシブトガラス及びアカハラの 6 種、哺乳類では、アライグマ、ドブネズミ 2 種が確認された。
- 4 月 28 日にアカハラが撮影され、第 5 回の春季（4 月 15 日、19 日、21 日）以降の記録となった。本種は現地調査においても冬季や春季に稀に確認されており、今回、春の渡り期に鳥の島の林内を一時的に利用したものと考えられる。
- 7 月 11 日にアライグマが撮影され、第 7 回の冬季以降、2 回目の記録となった。林内で下方を見ながら移動する様子が撮影され、旧防波堤を採餌場所として利用しているものと考えられる。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					夏季(7月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
5			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
6			コサギ	留鳥	○	○				VU
7	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		○				CR
8		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
9		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				*①
10	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
11			オオタカ	留鳥		○			NT	EN
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
13		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
14		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○				
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
16		メジロ	メジロ	留鳥		○				
17		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○				
18		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
19		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
20		アトリ	カワラヒワ	留鳥		○				
21	ハト	ハト	ドバト	留鳥		○				
合計	7 目	17 科	21 種	-	16 種	21 種	0 種	0 種	1 種	7 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	7	0	7
2	ハト	ハト	キジバト	1	0	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	107	88	195
4	ペリカン	サギ	アオサギ	13	6	19
5			ダイサギ	1	1	2
6			コサギ	1	0	1
7	チドリ	シギ	イソシギ	1	3	4
8		カモメ	ウミネコ	0	2	2
9	タカ	タカ	トビ	0	1	1
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	0	2
11		シジュウカラ	シジュウカラ	3	2	5
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	2	2
13		セキレイ	ハクセキレイ	0	1	1
合計	7 目	11 科	13 種	136	106	242
				9 種	9 種	13 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	2	8%	2
2	カツオドリ	ウ	カワウ	0	0%	9	38%	9
3	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	4%	1
4			コサギ	1	17%	2	8%	3
5	チドリ	チドリ	コチドリ	0	0%	1	4%	1
6		シギ	イソシギ	1	17%	3	13%	4
7	タカ	タカ	オオタカ	0	0%	1	4%	1
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	33%	0	0%	2
9		ツバメ	ツバメ	0	0%	3	13%	3
10		ヒヨドリ	ヒヨドリ	0	0%	1	4%	1
11		メジロ	メジロ	0	0%	1	4%	1
12		スズメ	スズメ	2	33%	0	0%	2
合計	6 目	11 科	12 種	6	100%	24	100%	30
				4 種		10 種		12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				夏季(7月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	9%	0	0%	0	0%	1	3%	2
2	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	0	0%	0	0%	19	63%	23	68%	42
4	ペリカン	サギ	アオサギ	2	18%	1	8%	1	3%	3	9%	7
5			ダイサギ	0	0%	1	8%	1	3%	1	3%	3
6			コサギ	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1
7	チドリ	チドリ	コチドリ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1
8		シギ	イソシギ	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1
9		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	8%	0	0%	2	6%	3
10	タカ	タカ	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	2
11	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	18%	0	0%	1	3%	0	0%	3
12		シジュウカラ	シジュウカラ	1	9%	7	54%	0	0%	0	0%	8
13		ツバメ	ツバメ	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%	1
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	9%	1	8%	0	0%	0	0%	2
15		スズメ	スズメ	1	9%	0	0%	3	10%	2	6%	6
16		セキレイ	ハクセキレイ	1	9%	0	0%	1	3%	0	0%	2
17		アトリ	カワラヒワ	0	0%	0	0%	2	7%	0	0%	2
18		ハト	ハト	ドバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	7 目	15 科	18 種	11	100%	13	100%	30	100%	34	100%	88
				9 種		7 種		9 種		7 種		18 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)		夏季(7月)	
		第7回 (R3～R4)		第8回 (R4～R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	キジバト	○	○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	アオサギ	○	○	○	○
5	ダイサギ	○	○	○	○
6	コサギ		○	○	○
7	コチドリ		○		○
8	イソシギ	○	○	○	○
9	ウミネコ	○	○	○	○
10	トビ		○	○	○
11	オオタカ				○
12	ハシブトガラス	○	○	○	○
13	シジュウカラ	○	○	○	○
14	ツバメ		○	○	○
15	ヒヨドリ		○	○	○
16	メジロ	○			○
17	ムクドリ		○	○	○
18	スズメ	○	○	○	○
19	ハクセキレイ			○	○
20	カワラヒワ	○	○		○
21	ドバト	○			○
合計	21 種	13 種	17 種	16 種	21 種
		19 種		21 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)		夏季(7月)	
		第7回 (R3～R4)		第8回 (R4～R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	3	1	7	0
2	キジバト	0	0	1	0
3	カワウ	45	156	107	88
4	アオサギ	5	11	13	6
5	ダイサギ	0	1	1	1
6	コサギ	0	0	1	0
7	イソシギ	0	2	1	3
8	ウミネコ	0	0	0	2
9	トビ	0	0	0	1
10	ハシブトガラス	2	1	2	0
11	シジュウカラ	0	0	3	2
12	ヒヨドリ	0	0	0	2
13	ハクセキレイ	0	0	0	1
14	カワラヒワ	1	2	0	0
合計個体数		56	174	136	106
合計島別種数		5 種	7 種	9 種	9 種
合計種数		7 種		13 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		夏季(7月)				夏季(7月)			
		第 7 回 (R3～R4)				第 8 回 (R4～R5)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	2	3%	0	0%	2	8%
2	キジバト	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カワウ	9	38%	27	46%	0	0%	9	38%
4	アオサギ	0	0%	2	3%	0	0%	1	4%
5	コサギ	0	0%	0	0%	1	17%	2	8%
6	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
7	イソシギ	0	0%	3	5%	1	17%	3	13%
8	ウミネコ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
9	オオタカ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
10	ハシブトガラス	6	25%	9	15%	2	33%	0	0%
11	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	3	13%
12	ヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
13	メジロ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
14	ムクドリ	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%
15	スズメ	0	0%	8	14%	2	33%	0	0%
16	カワラヒワ	8	33%	5	8%	0	0%	0	0%
合計	16 種	24	100%	59	100%	6	100%	24	100%
		4 種		9 種		4 種		10 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		夏季(7月)								夏季(7月)							
		第 7 回(R3～R4)								第 8 回(R4～R5)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度
1	カルガモ	1	3%	1	5%	0	0%	2	4%	1	9%	0	0%	0	0%	1	3%
2	キジバト	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%
3	カワウ	6	21%	7	37%	32	64%	30	64%	0	0%	0	0%	19	63%	23	68%
4	アオサギ	2	7%	2	11%	1	2%	6	13%	2	18%	1	8%	1	3%	3	9%
5	ダイサギ	2	7%	1	5%	0	0%	1	2%	0	0%	1	8%	1	3%	1	3%
6	コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%
7	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
8	イソシギ	2	7%	2	11%	1	2%	0	0%	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%
9	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	8%	0	0%	2	6%
10	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%
11	ハシブトガラス	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	2	18%	0	0%	1	3%	0	0%
12	シジュウカラ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1	9%	7	54%	0	0%	0	0%
13	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%
14	ヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	9%	1	8%	0	0%	0	0%
15	ムクドリ	12	41%	0	0%	6	12%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
16	スズメ	2	7%	0	0%	4	8%	3	6%	1	9%	0	0%	3	10%	2	6%
17	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	9%	0	0%	1	3%	0	0%
18	カワラヒワ	2	7%	5	26%	4	8%	4	9%	0	0%	0	0%	2	7%	0	0%
19	ドバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	19 種	29	100%	19	100%	50	100%	47	100%	11	100%	13	100%	30	100%	34	100%
		8 種		7 種		8 種		7 種		9 種		7 種		9 種		7 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○							
2	ヒドリガモ									○	○				○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○	○	○		
6	オナガガモ				○	○	○			○				○			
7	コガモ							○						○			
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○	○	○
9	キンクロハジロ										○						
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオヅロガモ													○			
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○	○		○	○
13	カイツブリ															○	
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ			○								○					
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ					○											
20	ササゴイ		○														
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チュウサギ									○							
24	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	カッコウ科の一種											○					
27	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○	○	○
28	ヤマシギ												●				
29	タシギ							○									
30	チュウシャクシギ														○		
31	キアシシギ									○							
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ					○	○								○		
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ	○	○			○											
37	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○		
39	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○								
40	ミサゴ	○		○			○		○		○						
41	ハチクマ	○															
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋 ～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋 ～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋 ～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋 ～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
43	ハイタカ		○		○					○							
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●		○
45	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○		○
46	オオコノハズク														●		
47	カワセミ			○			○			○		○		○			
48	チョウゲンボウ		○				○	○									○
49	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○		
50	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○			
51	カケス				○												
52	オナガ			○	○	○	○			○							
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ												○				
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ						○										
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○
60	オオムシクイ								○				○				
61	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
62	オオヨシキリ			○		○				○	○	○					
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	コムクドリ				○	○											
65	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○		○
66	アカハラ	○			○			○			○						●
67	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
68	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○	○	○
70	キビタキ	○				○											
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ			○													
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ				○								○				
75	タヒバリ						○				○						
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	シメ							○				○					
78	ホオジロ	○		○	○			○		○						○	
79	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	オオジュリン			○						○							
81	ドバト	○	○					○			○	○	○	○	○	○	○
合 計	81 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	41 種	41 種	34 種	38 種
		46 種		53 種		51 種		47 種		52 種		50 種		48 種		40 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。

 カルガモ	 キジバト
 カワウ	 アオサギ
 ダイサギ(重要種)	 コサギ(重要種)
 イソシギ(重要種)	 ウミネコ(重要種)

写真 2(1) 確認された主な鳥類

 トビ(重要種)	 ハシブトガラス
 シジュウカラ	 スズメ
 ハクセキレイ	

写真 2(2) 確認された主な鳥類

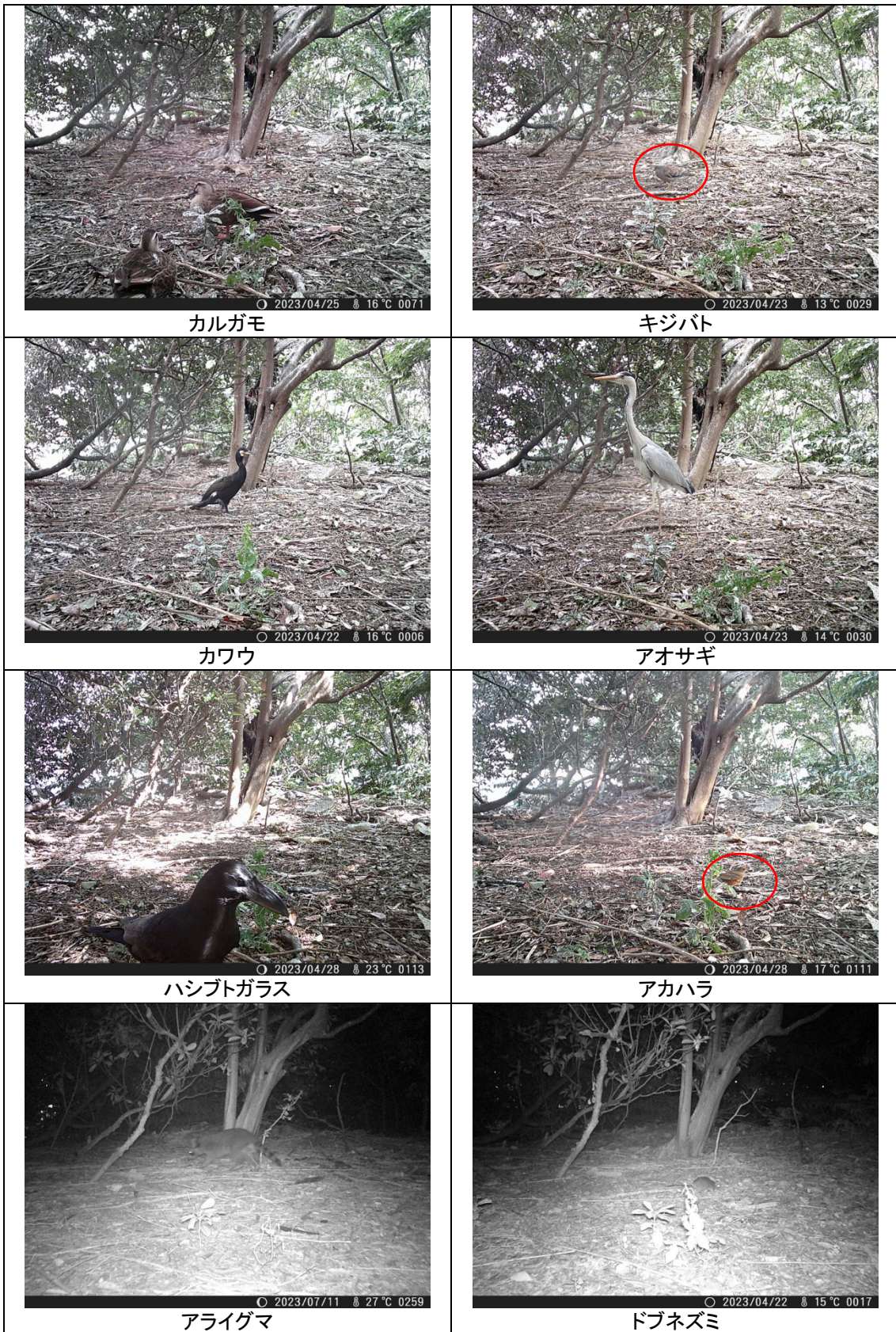


写真 3 自動撮影カメラで確認された生き物